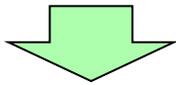


鹿児島市中心市街地活性化基本計画 (計画期間 19年12月～25年3月)

【中心市街地を巡る状況】

- 九州の南の拠点都市として繁栄
- H18以降、近郊に大型店が続々出店
- 天文館地区の商店街と百貨店の連携開始
- 中心市街地への人口回帰は始まっている。
- 平成23年3月、九州新幹線鹿児島ルート全線開通
→ 3時間50分(在来線)から1時間20分で博多へ
- 平成20年大河ドラマ「篤姫」放映へ



○歩行者通行量の減少

228,715人(H10)→125,531人(H18) [△45.1%]

○小売業年間商品販売額の減少

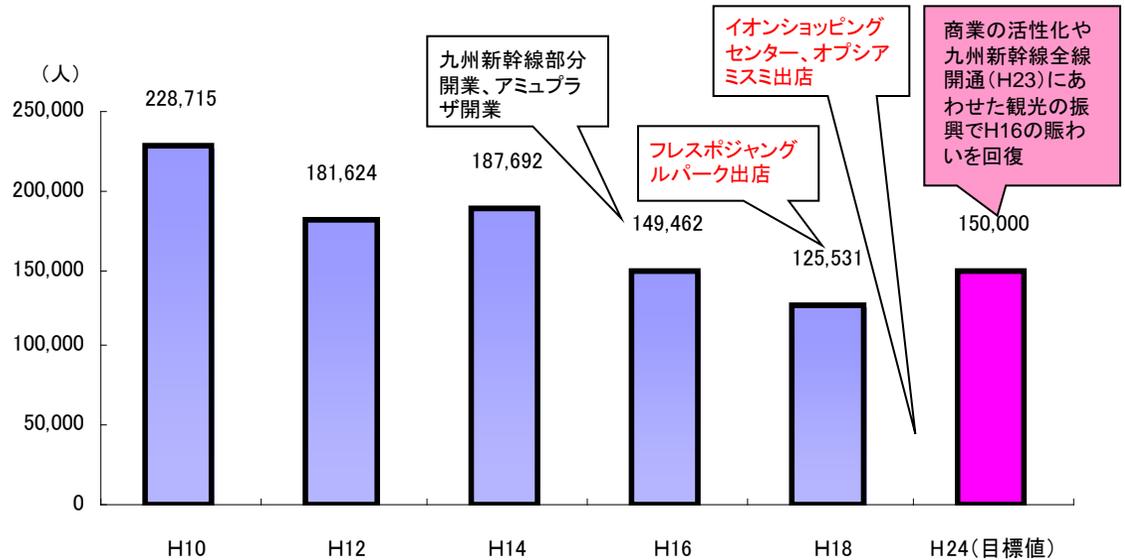
2,321億円(H6)→2,094億円(H16) [△9.8%]

【目標】

目標	指標	現況値	目標値(H24)
まちなかのにぎわい創出と回遊性の向上	歩行者通行量(20地点、土日)	125,531人/日(H18)	150,000人/日
九州新幹線の開業効果を生かした観光の振興	中心市街地の年間入込観光客数	6,801千人(H18)	8,000千人
南九州随一の中心市街地の商店街活性化	小売業年間商品販売額	209,421百万円(H16)	210,000百万円

【歩行者通行量(20地点、土日)の動向と数値目標】

※中心商店街20地点の合計



大河ドラマや九州新幹線鹿児島ルート of 全線開業を契機に観光客誘致を積極的に取り組むとともに、中心市街地内の大型店と商店街の連携により、商店街の活性化を図る。

鹿児島市中心市街地活性化基本計画の事業概要

いづろ・天文館地区の商業の活性化

○天文館ショッピングモール化の推進
いづろ商店街、照国表参道のアーケードを整備し、**巨大なショッピングモール化を推進**

アーケード整備(イメージ)



WE LOVE
天文館協議会

OWE LOVE 天文館協議会の活動

これまでバラバラであった、各商店街、百貨店、ホテル、飲食店、町内会など天文館地区の関係者が一体となって、「天文館まちづくり憲章」を定め、11の戦略を掲げて、各種イベント開催等に取り組む。

○山形屋の増床

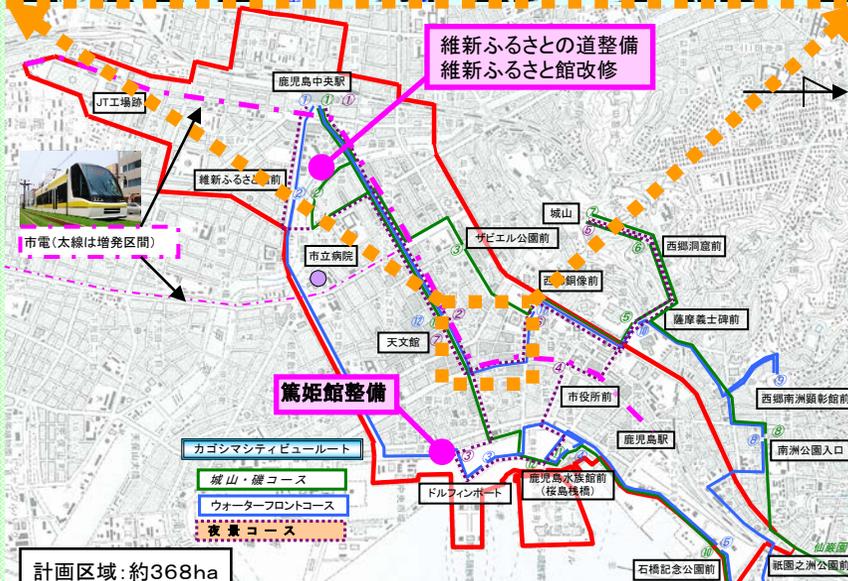
市道を廃止し、新館と旧館を一体とした店舗を建設し**売場面積を1.5倍に増加**
32,000㎡⇒48,000㎡
また、店舗の中にイベント広場を設け、地域と一体となったイベントを実施



山形屋



イベント広場(イメージ)



新幹線全通に向けた観光対策

○固有の歴史を生かした観光施設等の整備・改修

- ・篤姫館
- ・維新ふるさと館
- ・維新ふるさとの道



篤姫館

○かごしま観光プログラム推進事業等
まち歩きボランティアガイドの養成やまち歩きの実施、その他既存のカゴシマシティビュー(観光バス)や各種イベントの実施



かごしま錦江湾
サマーナイト大花火大会



カゴシマシティビュー

地域内交通の利便性向上

○中心市街地内の市電増発

市電車をJT工場跡に移設し、鹿児島中央駅～鹿児島駅間の運行本数を増加

少子・高齢社会への対応

○鹿児島市立病院の移転整備
老朽化と建物増改築による複雑化への対応として、JT跡地に病院を新設する

○親子つどいの広場

親と幼い子が気軽に集い、相談や情報交換等を行う子育て支援施設を街なかに整備